全学集会は流会

4日、八幡山グランドで

学長、所信表明ならず

全共闘派学生が壇上を占拠

四日午後一時から全学八幡山グランドで全学集会が開かれる予定であったが、中川雍弥学長が「授業再開」を訴える所信を読みあげようとする瞬間、これを阻止する全共闘の学生が、壇上を占拠、会場は混乱し、結局学長は一言もしゃべれないうちに流会となった。この日は一般学生・教職員など八〇〇〇人がつめかけ、成り行きを見守っていた。なお、この日の集会の流会をきっかけに、機動隊導入・ロックアウト説が強まっている。（カットは9・4集会）

一般学生八千人が参加

授業再開へ向けて、注目の全学集会は十月四日、八幡山本学グラウンドで開かれたが、学生が演壇を占拠したため、学長自らの所信表明はならず、流会となった。

グランド入口では教職員一三〇人が学生の提示する学生証を検分、学側のパンフを学生に手渡した。事前に要請された機動隊は一般学生を刺激させないため、学生の目の届かないところに待機しテモ隊に備えた。

会場の陸上競技場は約八〇〇〇人の学生で埋まった。午後一時十分、学長・総長らが演壇に現われ、「これより所信表明をするなら」と呼びかけた瞬間、演壇近くに陣取っていた学生約三〇人は「ワーッ」と演壇に押し寄せ、学長らを押し出し占拠した。二、三人の体育会学生ともみ合ったが、学生はスクラムを組んで、〝全学集会粉砕〟のシュプレヒコールをくり返した。このため学長らはいったんプレハブ部合宿所へ退避した。

ほうぼうと立ちのぼる一般学生の怒に、まもなく赤旗を持ったデモ隊約五〇人がグランド裏手の金網を越えて侵入、グランドをデモ行進した。学生は集会を開き、大学側がこの場に現われるよう」訴えたが、大学側は合宿のスピーカーから〝全学集会にかたって〟このパンフを白石四郎政経学部長が二回読みあげ「これで大学の態度の表明を終ります」と放送した。

その後、体育会学生を中心とする「自由討論会」も別のグランドで持たれた。

「このままでは流会にできない」とする大学側は、裏側の入口から再び入場、これを学生らがスクラムで囲き込もうとしたが、水野東太郎理事長・松田孝学生部長らは学生を振り切って、合宿所に逃げ込んだ。

その際、木下半治学務事が学生につかまり、演壇で〝全学集会の意義は〟などと追及されたが、木下理事は黙して答弁しなかった。

そして、午後二時五十六、「本日の集会は混乱のため中止する」と西垣情二部教務部長が流会宣言をした。これに対抗して学生側は独自の〝全学集会〟を開いた。

全学集会粉砕を決議

三日にそれぞれ予定されていた全明討論集会（生田地区院生・助手共闘主催）、全学討論集会（全明全共闘主催）は全学集会に向け助手共闘・院生共闘の挨拶があり、午後四時過ぎ、インターナショナル斉唱、グランドを約五〇〇人がデモ行進した後、和泉校舎へ向かった。

なお、約一〇〇名の「一般学生・良識学生による討論会」も開かれたが、四時前に終了した。また、この集会で本部講堂に疲労のため救急車でかけつけた。

弾劾集会も和泉で開く

この日の全学集会に対する弾劾集会が午後四時すぎ、和泉校舎八番教室で開かれた。

まず関口成一全明全共闘議長から「全学集会は圧倒的な力で勝ち取られた。大学側を強制して勝ち取られたのだ」との総括があり、横谷優一二部全共闘から「確かに本日は圧倒的な力量で勝ち取られた。われわれはバリ死守をもってこれから政治闘争を闘い抜く。方向性としては圧倒的な学友を結集し大デモをくりひろげてゆく。そして資の高揚をめざし、大学解体・世界反乱を勝ち取るのだ。七〇年、帝国主義に対しては全国全共闘で闘い抜こう」との総括と方向性が述べられた。

そのあとシュプレヒコール、インターの斉唱で午後六時頃終った。

和泉で総決起集会

四日の午前十時から、和泉校舎六番教室で、約五〇〇人を集め全学集会に向けた全明総決起集会が開催された。

牛田地区全共闘が「青の明大総反乱を貫徹しよう」と挨拶。この後、次々と闘争委員会から決意表明がなされた。

関口成一全明全共闘議長が「大学側の官憲導入・ロックアウトの策動を見抜け。右翼・民青を許さず、明大闘争を闘い十一月決戦に向けて、バリストを貫徹しよう」横谷優一二部全共闘がこの日の行動方針と全学集会での獲得目標、さらに商闘委・政経闘委の決意表明の後、互井暨二全明全共闘副議長代理が「スターリン主義者を徹底的にぶっつぶせ。今や個別闘争で達捕された。